

鶴川図書館大好き！の会 「第2回図書館カフェ in 鶴川」開催報告

庄司洋子

2020年2月15日（土）鶴川市民センターで、第2回図書館カフェが開かれた。鶴川図書館を大切に思う人々が、鶴川図書館存続のために知恵を絞る（本格コーヒーとお菓子付き）集まりとして発足し、今回は、中央図書館長と図書館担当課長にも参加していただいた。

全員で自己紹介をした後、参加者から「鶴川図書館、さるびあ図書館が駅前図書館、中央図書館に統合されるというのは、それを進める強い意見があったのか」という質問から話し合いが始まった。それに対して館長から「両館とも駅前、中央に距離が近いところからすすめられたが、鶴川は、URの建て替えの話があって早く決められた」との返答があった。しかし、「1.5キロメートルの基準は根拠がない」こと、「財政難であれば館数を減らすのではなく、経費を減らすのではダメなのか？」など疑問が出された。また「町田市は図書館を増やす方向から、一転減らす方向に転換してしまったが、隣の多摩市は、人口は町田市より少ないが8館あり、また30億かけて新しい図書館を建設しようとしている。一人当たりの図書購入費も400円近く、町田市の79円は恥ずかしい」

元職員の方からは、財政面については「今朝の東京新聞に町田市の予算について、大型建設事業が多く、一般会計は過去最大規模との記事が載っており、野津田公園に44億5千万円とあった。決して財政が今苦しいわけではない。一方、茨城新聞では、指定管理制度を導入した図書館が、直営に見直しをしている記事を載せた。今回のアクションプランは市長の指示なのか？」鶴川図書館のある商店街の方からは、「鶴川図書館を残して欲しいと署名運動をし、請願は全会一致で通ったことはどうなるのか？商店街には、郵便局と図書館は必要だと考えているし、URも建て替え時は図書館を入れるつもりである」子育て中の方からは、「小さい子どもが自分で本を選ぶ時期には、鶴川図書館がちょうどいい。司書さんが相談に乗ってくれ大切な学びの場になっている。子どもを駅前までバスで行かせることはできない。一度なくなってしまうと、取り戻すことは非常に大変である」と意見が述べられた。私も、「市が今まで蓄積した図書館運営の力を手放してしまって本当に大丈夫なのか、今後、問題が起きた時に取り戻すことはできると思うか？」と非常に不安になったことを聞いた。館長は「今回駅前図書館で行うのは試行であって、その後進めるか決めていく」と答えられたが、「アクションプランには1年間の試行後、他の館に広げていくと書かれている。1年ではあまりにも短い。指定管理になったら市は監督できるのか？」と疑問が出された。じっと聞いていた長年図書館を利用してきた参加者からは「中央図書館は階段を上がっていかないと閲覧室に行けず、エレベーターは図書を運ぶためのものと言われ、高齢者には辛い、又、駅前図書館は学生でいっぱいになっていて座れない、鶴川図書館は座って読める。この辺りは子どもが多く、子供用のフロアもあって自由に本を引き出して読んでおり、車で遠方から来る親子も多い。計画では、代替施設として、予約の受け渡しはできても、市民が求めていることと乖離している。このことをどう考えるのか？」と質問があった。しかしながら、市の職員の方は、「そのことは重々承知している」としながらも、「鶴川図書館が残ることはない」「私たちは計画を進めるのが仕事だ」と言われた。この言葉に、私は、ハンナ・アーレントが、アイヒマンが裁判にかけられた時に「我々は仕事をしたまでだ」と述べたことにショックを覚えたと書いていることを思い出した。せっかく出席して下さり、予定の時間を超えて参加していただいた市の方には、あまりにもひどい連想ではあるが、それにフタをできないでいる。

職員が帰られた後、3月7日（土）同センターで14:00より第3回のカフェを開くことを決め、2月16日中央図書館前で請願の署名活動、23日駅前図書館前、3月7日は鶴川図書館前で署名活動を行うことを確認した。また、市が図書館を減らしたり、指定管理者制度を導入するためには条例改正が必要で、市議会にかけると必要があるので、2022年までのどこかでそれをくい止めることも考えることを確認した。